公益社団法人　京都市観光協会

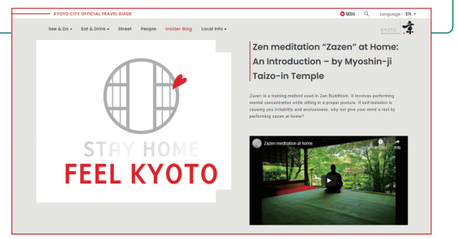
「また来たい」と感じてもらえる京都をめざして

このコーナーでは、京都のまちづくりに取り組む企業・団体をご紹介します。今回は、長年当財団の賛助団体として、京都ならではの観光資源を活用した事業実施や観光情報の発信等、京都の観光振興を推進されている、公益社団法人 京都市観光協会です。担当部長の嵯峨亜希子さんに、新型コロナウイルスの感染拡大下での様々な取組についてお話を伺いました。

自宅にいながら京都の魅力を感じてもらう

新型コロナウイルスの影響は京都でも非常に大きく、日本人宿泊客数は回復しつつあるものの、外国人宿泊客数は依然0に近い状態です。そんな中でも、遠方や海外の皆様に京都の魅力を感じていただけるよう、「**Stay Home, Feel Kyoto**」というサイトを立ち上げています。禅や京料理等、京都ならではの文化を動画等で紹介することで、京都への期待値を高めていただくための取組です。

Stay Home, Feel Kyoto
(日) https://ja.kyoto.travel/feelkyoto/
(英) https://kyoto.travel/en/feelkyoto/



誰もが安心して過ごせる街をめざして

感染拡大の初期段階では、まず事業者に必要な支援として補助金等の施策を進めてきました。現在は事業者による衛生対策徹底のPRや、事前予約による来訪者の分散化等を実施しながらお客様をお迎えしています。

一方、旅行者に知ってほしい旅のエチケットとして、「**京都まちけっと**」をJT(日本たばこ産業株式会社)と共同で考案しました。事業者と旅行者への十分な注意喚起により、京都で暮らす市民の不安を軽減し、誰もが安心できる街を目指しています。

コロナ禍終息後を見据えたアクション

公益社団法人京都市観光協会　嵯峨亜希子さん

アメリカの旅行雑誌「コンデナスト・トラベラー」にて、京都が世界第１位の人気都市として選出されました。注目を浴びるのは喜ばしいですが、旅行者数の増加よりも、京都の文化や歴史的背景・ストーリーを深く理解してもらい、「また来たい」と感じていただくことが重要です。今後デジタル化が進んでも、五感をくすぐるリアルな体験の需要や価値は更に高まると思われます。コロナ禍終息後に安心して京都の街を楽しんでいただけるように、今だからこそできる準備をしっかりと行っていきたいです。

公益社団法人 京都市観光協会（DMO KYOTO）
HP　https://www.kyokanko.or.jp/　京都まちけっと　https://www.kyokanko.or.jp/withcorona/newmanner/

京まち工房 ニュースレター 93
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

特集　P2-3
嵐山景観づくり計画書が認定されました。

CONTENTS

P1 京都人㋜の京都知らず
P4 京町家まちづくりファンド改修助成選定事業
P5 「Machiya Vision」に反響
P6 京町家の専門家紹介
P7 「私と京都」／京都人㋜の京都知らず 編集後記
P8 賛助団体紹介

令和2年度賛助会員募集中！

入会をご希望の方はまちセンにお問合せいただくか、ホームページをご覧ください

賛助団体の皆様			
「京ぐらし」ネットワーク	360°パノラマ画像企画・制作 ぐるっとVIEW	アルパック 株式会社 地域計画建築研究所	JR this is japan. ISETAN
「価値ある相続」をコーディネート 一般社団法人 相続相談センター	フラットエージェンシー	平安建材株式会社	京都駅ビル
京町家居住支援者会議	公益社団法人 京都市観光協会	ART GALLERY & RENTAL SPACE be-kyoto	株式会社都ハウジング
大阪ガス	一般社団法人 京都府不動産コンサルティング協会	RITSUMEIKAN	京町家をお探しします。株式会社 八清（ハチセ）
京都信用金庫	SAPPORO	中藏	京都でんき
京都中央信用金庫	住宅金融支援機構 Japan Housing Finance Agency		

公益財団法人
京都市景観・まちづくりセンター
〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る
梅湊町83番地の1（河原町五条下る東側）
ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL：075-354-8701　FAX：075-354-8704
E-mail：machi.info@hitomachi-kyoto.jp
HP：http://kyoto-machisen.jp
HP
Facebook
京都市景観・まちづくりセンター　検索

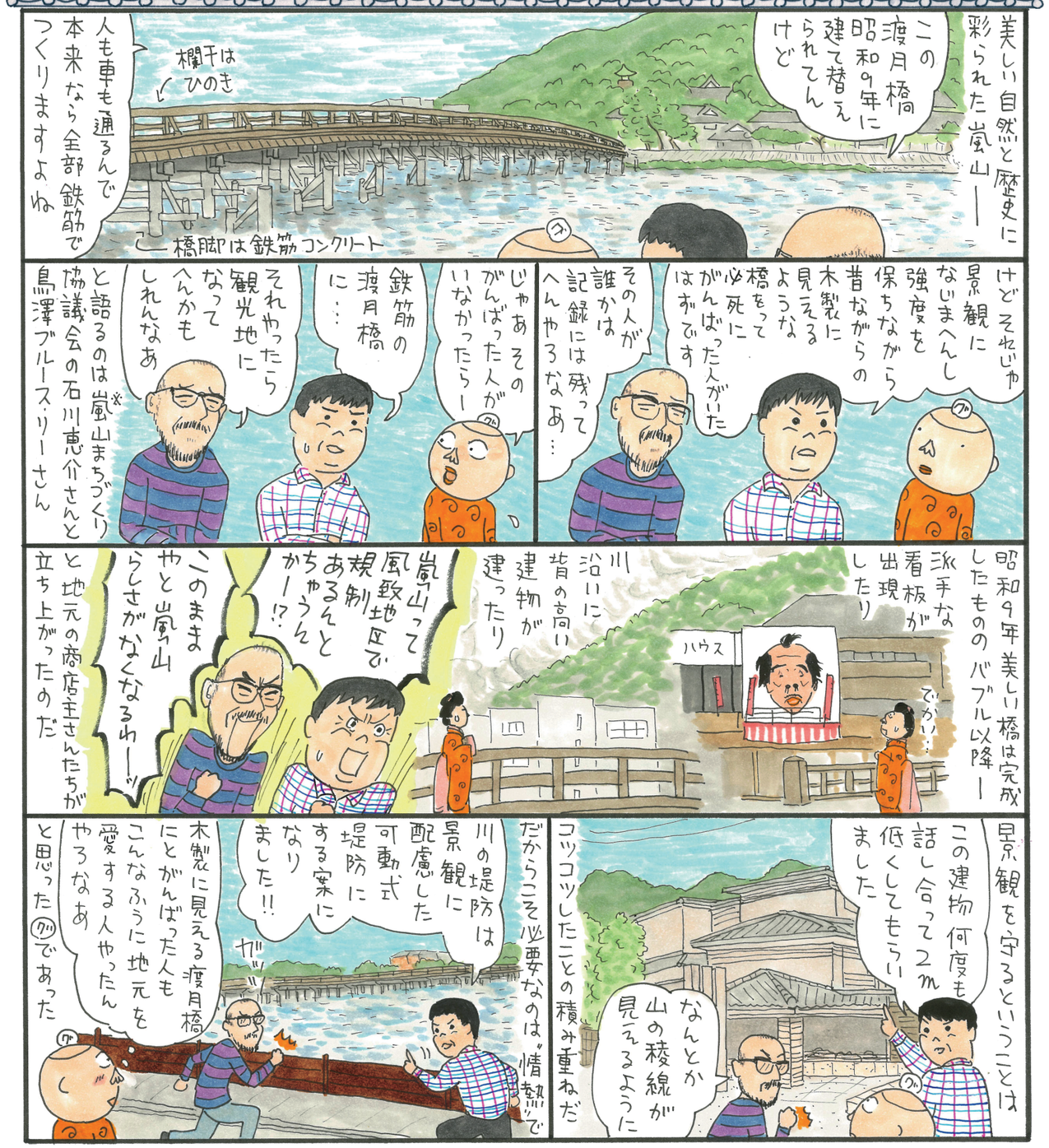
※センターへお越しの場合は公共交通機関をご利用下さい。

KES ステップ1登録
この印刷物が不要になれば「雑がみ」として古紙回収等へ！

公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

ニュースレター
京まち工房 93
公益財団法人 京都市景観・まちづくりセンター

グレゴリ青山 京都人㋜の京都知らず　その11　嵐山を守るのだ！



※2020年10月1日、嵐山まちづくり協議会が作成した「嵐山景観づくり計画書」が京都市から認定を受けました。

嵐山景観づくり計画書が認定されました！

京都を代表する景勝地・嵐山では、「嵐山まちづくり協議会」やその前身組織が中心となって地域の景観づくりに取り組んできました。
この度、協議会が作成した「嵐山景観づくり計画書」が京都市から認定されましたので、これまでの取組を振り返るとともに、嵐山のこれからを考えます。

嵐山の歴史

平安時代には天皇家ゆかりの地として知られ、四季折々の姿を見せる嵐山、清流・大堰川（おおいがわ）、シンボル・渡月橋、の調和した景勝地として長く親しまれてきました。

歌川広重「大日本六十余州名勝図会」1853～1856

これまでの取組

嵐山には風致地区等の規制がありましたが、地域の景観にそぐわない建物や看板が建ってしまうこともありました。その理由として、当時は計画段階で地域と協議をする制度がなかったことが挙げられます。それでも現在の協議会メンバーは、まちセンが派遣する景観づくりの専門家のサポートを受けつつ、地域の声を事業者に届けようと尽力してきました。それを足掛かりに、計画段階から地域の思いを反映させられる仕組みを作るため、地域景観づくり協議会を立ち上げ、嵐山のあるべき姿とは何かを議論してきました。

「嵐山景観づくり計画書」認定

2020年10月

10年以上にわたる活動の積み重ねが実り、嵐山景観づくり計画書が京都市から認定を受けました。他の地域の計画書と比べ、自然との調和を前面に押し出していることが特徴と言えます。

今回計画書が認定されたことで、対象エリア内で意見交換が義務づけられ、よりよい景観づくりのために地域と事業者で話し合うことができるようになりました。

計画書認定式　2020年9月

嵐山のこれから

嵐山の将来像（嵐山景観づくり計画書より）

“自然と歴史的建造物が織りなす
調和を守り生かしていく「まち」へ”

“住民が誇りを持てる「まち」へ、そして
人々が何度も訪れたくなる魅力を持つ「まち」へ”

“芸術、工芸、食など、
文化的にも向上させていく「まち」へ”

協議会　副会長・鳥澤さんから

一連の活動では、嵐山の自然や歴史的建造物に調和するか、ということを常に大事にしてきました。建物の高さ、色、素材、看板の大きさ、街並みの連続性、眺望、植栽、ゴミの処理等 気にしなければならないことは山ほどあります。それらを一つ一つ吟味するため、CGアニメーションで街並みを再現したり、照明を実験点灯したり、と大変な手間をかけてきました。でも、そういう取組を通して少しでも良いものにしていくことが、嵐山の落ち着いた街並みを将来に残すことにつながると考えています。

亀山公園改修への取組
2009～2011年

保養所新築への取組
2010～2014年

嵐山の景観勉強会をスタート
2011年

嵐山まちづくり協議会設立準備会発足
2013年

大堰川（おおいがわ）の治水への取組
2014年～継続中

嵐山まちづくり協議会が地域景観づくり協議会に認定
2018年

地域景観づくり協議会制度とは

地域景観づくり協議会とは、地域の思いや方向性の共有、そして地域とその地域で建築等をしようとする人の協働による景観づくりを目的とした制度です。

この制度によって、協議会の活動区域の景観の保全・創出の方針をまとめた「地域景観づくり計画書」が2020年12月現在、11の地域で京都市の認定を受けています。

「地域景観づくり計画書」が認定された区域で建築や看板設置等をしようとする時には、計画内容について協議会と意見交換をすることが義務づけられます。

意見交換の流れ

建築物等の計画を市へ連絡
▼
制度が導入されている地域内で義務づけ
該当する地域景観づくり協議会へ連絡
▼
地域景観づくり協議会と意見交換を実施
▼
京都市への意見交換内容の報告
▼
各種景観条例に基づく許認可申請
▼
許可、着工へ

景観に配慮したコロナポスターを作成しました

地域景観づくり協議会制度を活用している11地域が集まってできた「京都市地域景観まちづくりネットワーク」と京都市・まちセンが協力し、2020年10月に、景観に配慮した新型コロナ感染予防ポスターを作成しました。

京都市が感染拡大当初に作成したポスターと比べ、景観を大事にしている地域にもなじむデザインとなっております。各地域にて貼られておりますので、ぜひ探してみてください。

令和2年度 京都景観ゼミナール 受講生募集中!

景観って一体、何だろう?そんな疑問を持つみなさまのため、京都の景観とまちづくりについて学ぶ全3回の連続講座を1月に開講します。今年度はコロナ禍のため、全てオンラインで行います。講座の詳細、お申し込みは以下の2次元コードから。

第1回 1/14（木）19時～
「景観/景観まちづくりってどんなもの?」
第2回 1/15（金）19時～
「バーチャルまちあるきで景観視点を養おう」
第3回 1/28（木）19時～
「どんな景観まちづくりがふさわしいのか考えよう」

新生 京町家まちづくりファンドの挑戦！

令和元年度改修助成選定事業　通り景観の修景

「五条坂なかにわ路地」 ～多世代居住の子育て路地として～

制度も新たに再スタートした京町家まちづくりファンド

京町家まちづくりファンド（以下、ファンドという。）は、寄附者や関係者のご協力のもと、京都固有のくらし・空間・まちづくりの文化の継承と発展等を目的に、平成18年度からこれまでに89件の京町家の外観改修を支援してきました。

平成30年に京町家条例（京都市）が施行されたことに伴い、様々な改修助成制度が整備されたため、ファンドは独自の展開を模索しました。令和元年度より、ファンド設立の理念に立ち返り、一層の地域コミュニティへの貢献、暮らしの文化を継承する活用・取組の要件に重点をおいて選定をしています。その特色の一つとして、通り景観の修景への助成に注力し、「五条坂なかにわ路地」、「吉田神楽岡旧谷川住宅群」の2件を選定しました。今回は「五条坂なかにわ路地」の改修事業についてご紹介します。

路地は今も昔も子どもの遊び場

日当たりの良いこの路地は、昔から子どもにとって格好の遊び場でした。今でも高齢者世帯から子育て世帯まで幅広い年齢層が住まわれ、町内活動への参加や隣近所のお付き合いをされていますが近隣のホテル建設や観光地化が進む中で、地域コミュニティの共助を大切にしたい、この路地の居住空間を安心して子育てができる場にしたい、という想いを所有者は再認識されました。

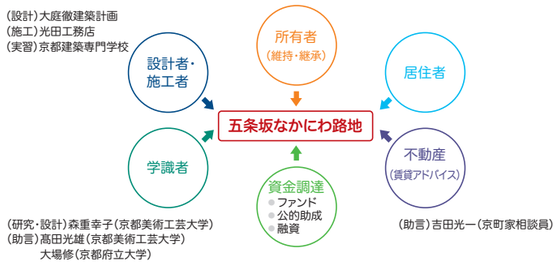
受け継いだ京町家を次世代へ

所有者は京町家等継承ネットで開催した相談会に参加され、将来にわたって賃貸活用していくために、ご親族と検討を続けてこられました。長年、各戸がそれぞれに改修し、部分的な修繕を重ねてきましたが、躯体の傷みもあり抜本的な改修が必要でした。この路地をしっかりとした資産として次世代へ残すべく、一念発起し路地全体の改修計画に取り組まれることとなりました。

所有者の想いをサポート

路地に面して8軒、本二階建て4軒長屋が向かい合わせに建っており、全体の外観改修と空き家になった3軒の内部改修には、助成金の利用や資金調達、老朽化した長屋を健全化する改修技術をもつ工務店が必要でした。当財団は所有者のご希望を伺いながら、多角的に設計、施工、不動産活用の立場の専門家を募り、学識者にも参画いただきサポートを行いました（関係図）。京都建築専門学校の講師である光田彰棟梁が施工を担当したご縁で、学生達の実習の場として技術者育成にも活用されました。改修中から入居者募集を始め、幸いなことに3軒とも工事完了を待たずに入居者が決まりました。

関　係　図



住みやすさへの工夫

路地の風情を醸し出す出格子ですが、低い採光性や画一的な外観に抵抗を感じるというご意見がありました。そこで、可動式の出格子として、基本的な外観は保ちつつ、現代の生活にも応える機能と個々の住人の方の住まい方が外に表われる外観を備えたデザインを、設計者と大工さんにチャレンジしていただきました。出格子の屋内側には土間と障子を合わせて配置し、屋外と屋内のつながりを調整できる空間を設けています。最も建築当初の意匠を残す1軒を参考に、全体の修景を施しています。

継承のため改修や活用に踏み出した所有者、長期間の工事に協力いただいた入居者の皆様を、当財団はこれからも応援いたします。

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭2020　アソシエイテッド・プログラム　展覧会「Machiya Vision」

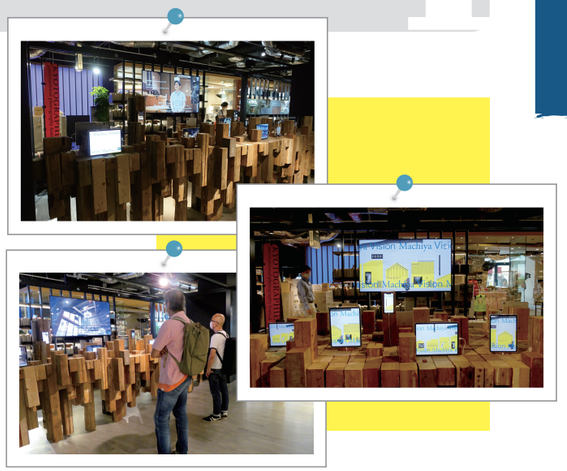
それぞれの「Machiya Vision」に反響

当財団では、令和2年9月にKYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭との共催で、展覧会「Machiya Vision」を開催しました。コロナウイルス感染対策を行う中での展覧会。「Machiya Vision」は閉幕後の今も、京町家の都市住宅としての魅力と可能性をお伝えし続けています。

展覧会「Machiya Vision」は、京町家を仕事場や住まい等とされている方々にインタビューし、写真と映像作品によって、都市住宅としての京町家の魅力と可能性をお伝えし、好評のうちに閉幕いたしました。フェイスブックやインスタグラムのフォロワーを約1.5万人有するKYOTOGRAPHIEに、SNSでの発信にも協力いただきました。当財団の取組や京町家のことを新たに知って下さった参加者も多数いらっしゃいます。

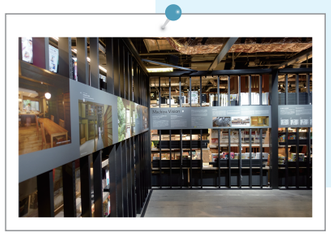
展覧会は閉幕しましたが、「Machiya Vision」特設ホームページでは、現在も作品のもとになった、18組のインタビュー動画のロングバージョンをご覧いただくことができます。ロングバージョンのインタビュー映像では、インタビューを受けてくださった皆さんの京町家への深い想いと、通常は見ることができない京町家の内部の様子を、展示映像よりも更に充実した内容でご覧いただけます。併せて、特設ホームページでは、展覧会場の360度ビューも公開していますので展覧会の雰囲気を追体験していただけます。

展覧会終了後も引き続きお楽しみいただける「Machiya Vision」。ぜひ一度、特設ホームページをご覧ください。



展覧会場の様子

合計20台のデバイスが一つの映像作品をつくりあげました。小型のデバイスが設置されている台は、解体された京町家の柱の古材を再利用。



パネル展示の様子

パネル展示では、京町家が置かれている厳しい状況や京町家の魅力について解説。

書籍販売の様子

展覧会場では、大垣書店のご協力により京町家に関連する書籍も展示・販売いたしました。

内覧会の様子

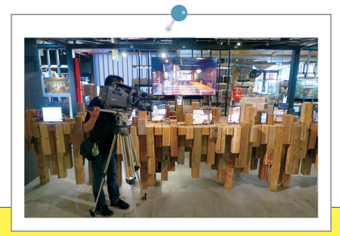
9月2日に開催された招待者・関係者向けの内覧会の様子。多くの方にご参加いただきました。

KYOTOGRAPHIEより

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭では、毎年、京都の町家を会場に写真展を開催し、京町家の魅力を国内外の来場者へ発信しています。

このMachiya Vision展を、京都市景観・まちづくりセンターとのコラボレーションで開催できたことにより、京町家についてさらに深く理解し、また、京町家が置かれている状況を展覧会全体を通して体験することで、ハードとしてだけの京町家ではなく、その中で営まれているソフトとしての暮らしの文化の重要性、京町家が持つその多様な魅力を改めて来場者へ発信できたと思います。

（KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 プロジェクトマネージャー 玉置 慎輔）



TV取材の様子

KBS京都による取材の様子。その日のうちにテレビにてニュースとして放送されました。

展覧会「Machiya Vision」開催概要

開催期間：令和2年9月3日（木）～9月30日（水）　時　間：午前10時～午後9時半（最終日は午後6時まで）

会　場：大垣書店 京都本店 イベントスペース　ー催ー（京都市下京区四条通室町東入函谷鉾町78 SUINA室町1F）

KYOTOGRAPHIE 京都国際写真祭 2020について

世界屈指の文化都市・京都を舞台に開催される、日本でも数少ない国際的な写真祭。
詳しくはホームページ（https://www.kyotographie.jp/）をご覧ください。

展覧会「Machiya Vision」特設ホームページ：**http://kyoto-machisen.jp/machiya-vision/**

第19回 地域まちづくり・京町家の専門家紹介

京都の近郊農村に残る農家住宅の魅力を発掘する

当財団は多くの専門家の方々のご協力のもと、地域のまちづくりや京町家の保全・再生に関わる事業を行っています。このコーナーでは、京都のまちにかかわる専門家の方々をご紹介しています。今回は、設計指導のかたわら地域に残る伝統建築の調査に携わる大学の先生をご紹介します。

今回はこの方!

是永（これなが） 美樹（みき）氏 京都女子大学家政学部生活造形学科 准教授

東京工業大学大学院修了。東京工業大学助教を経て2018年度より現職。居宅として京町家を購入し、現在改修工事中。一般財団法人長谷川歴史・文化・交流の家事務局。京町家カルテ調査員。京都市文化財マネージャー。

ー伝統的な建築に興味を持ったきっかけ

30代になった頃から、日本の伝統的な建築の魅力に惹かれ始めました。ちょうどその頃、同じ研究室に古民家の活用事例を研究しているグループがあって、その議論を通じて民家の土間空間に魅力を感じるようになりました。京町家のハシリもそうですが、屋根のある土間空間の内部なのに外のような、空間の包容力に可能性を感じています。

2014年に家族の転勤をきっかけに東京から引っ越してきました。せっかく長い歴史のある京都に住むのだから、まちの成り立ちや伝統的な建築などについて改めて勉強したいと思い、「京都市文化財マネージャー育成講座」を受講しました。

ー長谷川歴史・文化・交流の家との関わり

現在、東九条にある築約280年の農家型住宅「長谷川歴史・文化・交流の家」（長谷川家住宅）の事務局として運営をお手伝いしています。文化財マネージャーとして、展覧会のお手伝いで初めて長谷川家住宅を訪れたとき、立派な大梁が架かる広い土間空間の迫力に魅了されました。京都駅からすぐ近くにこのような住宅が残っていることに驚き、また、所有者の中川名津さんと聰七郎さんが建物の維持・活用に奮闘されていることを知り、何かお手伝いができないか、ということで事務局に参加させていただくことになりました。

立派な梁が架かる
長谷川家住宅の土間空間

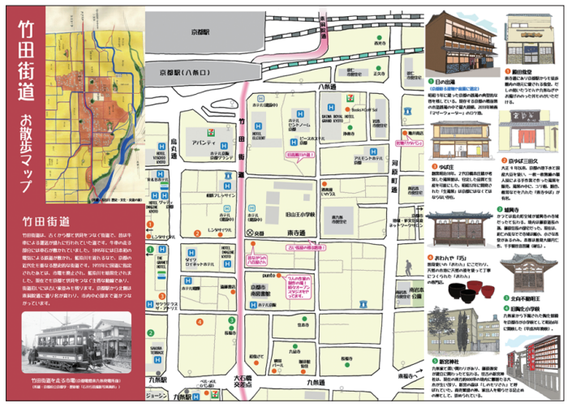
ー近郊農村の農家住宅に注目

長谷川家住宅は、京都駅から歩いて行ける便利な立地にあるにもかかわらず、見学者はそれほど多くありません。京都は街中に数多くの歴史的な建造物が残っているので、京都市内では珍しいこともなく、目立たない存在なのかもしれません。でも、京都以外であれば地域の名所になりそうな立派な建物が注目されないのはあまりにももったいない！と思いました。また、東九条地域には長谷川家住宅と類似した農家型の住宅が点在しており、地域の文化として何か情報発信できないか、と考えました。

ー地域の新たな魅力を発掘する

大学のゼミで、学生たちと一緒に東九条地域の農家型住宅の分布状況と間取りの地域的な特徴について調査しました。また、2018年には南区の補助金を利用して、京都駅から伏見へつづく竹田街道周辺を歩いて楽しめるような「竹田街道お散歩マップ」を作成しました。ゼミの学生にイラストを描いてもらい、観光案内所などでも配布してもらいました。その他にも、授業の中で長谷川家住宅の活用提案や、設計課題として旧陶化小学校跡地の活用計画に取り組むなど、若い人たちのアイデアや発想を地域の新たな魅力につなげることができないか模索しています。

今年度は、同じ南区の吉祥院地域や上鳥羽地域といった市街地周辺部の近郊農村に残る伝統的な建築の分布を調査中です。


竹田街道 お散歩マップ
竹田街道
京都駅
京都駅（八条口）
八条通
竹田街道
南北通
九条通
九条大橋
九条駅
十条駅
ジョーシン
アバンティ
ヨドバシカメラ
京都市南部合庁
京都市南部保健所
京都市南部保健センター
京都市南部保健センター分室
京都市南部保健センター竹田分室
京都市南部保健センター久世分室
京都市南部保健センター上鳥羽分室
京都市南部保健センター吉祥院分室
京都市南部保健センター西京分室
京都市南部保健センター伏見分室
京都市南部保健センター向島分室
京都市南部保健センター久御山分室
京都市南部保健センター宇治分室
京都市南部保健センター城陽分室
京都市南部保健センター木津分室
京都市南部保健センター精華分室
京都市南部保健センター和束分室
京都市南部保健センター笠置分室
京都市南部保健センター南山城分室
京都市南部保健センター加茂分室
京都市南部保健センター山城分室
京都市南部保健センター宇治田原分室
京都市南部保健センター井手分室
京都市南部保健センター綴喜分室
京都市南部保健センター八幡分室
京都市南部保健センター久御山